



## 2021年度新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます！

昨年度に続き、未だ厳しい状況は続きますが、新しい手段をたくさん見出して今年度も頑張りましょう！  
2021年度最初のボランチ通信は、3月の活動報告からお届けします。

## 福島県飯舘村元村長菅野典雄氏講演会

## 3月2日、福島県飯舘村元村長 菅野典雄氏の講演会をZoomで開催しました。

飯舘村と上智大学は、2014年に飯舘村民と上智大学生の相互交流を目的として協定を締結しました。それ以来、毎夏、上智大学の学生が福島を訪れ、飯舘村立飯舘中学校(2020年4月からは小中一貫の義務教育学校「飯舘村立いいたて希望の里学園」)での学習支援や部活動支援、村民との交流を行ってきました(飯舘村交流事業)。

震災から10年となる2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、残念ながら現地での活動を実施することはできませんでしたが、飯舘村の村長を24年間務められ、交流事業で村を訪れた上智大生をいつも温かく迎えてくださった元村長の菅野氏を、画面越しではありますが、お迎えすることができました。

菅野氏が村長第4期目に、東日本大震災・東京電力福島原発事故が発生し、飯舘村が全村避難となりました。そのような突然かつ重大な局面においても、**村民が早く戻ってこられるために何を優先すべきかを考え、復興のためにどのような思いで指揮を取られていたのか**など、当時の状況を思い出しながらお話しくさしました。

後半では、津波で大切な家族を失った方々のお話も交えつつ、「**教育(=人づくり)が全ての原点である。優秀な人も、人間性(心)がなければ、社会は受け入れてもらえないのでは?**」と問いかけながら、上智大生にどのような人間になって欲しいのかというメッセージを温かな口調で語ってくださいました。

コロナ禍という誰もが経験したことのない状況に直面している今、菅野氏のこれまでのチャレンジやリーダーとしての心の持ち様は、とても心に響くものがありました。

質疑応答の時間には、過去に飯舘村交流事業に参加した学生から、当時学生一人一人に声をかけてくださった菅野氏への感謝とともに、村長としての長きに渡るご尽力とご活躍に敬意とお祝いを伝える場面もありました。



## 参加者の感想

・「**成長より成熟**」という言葉が一番印象に残りました。成長を優先しすぎること、社会は、老人や病人、生活困窮者や地方の人など弱い立場の人々に配慮できているのか、またコロナ禍や自然災害のような突然の出来事にどの程度対応できるようになるのか、など、多面的に考えさせられました。

・「**原発事故から何を学び、次の世代にバトンタッチするかが大切である**」というお話があり、私自身はもっと震災での経験を学びに行く姿勢が必要である、と思いました。私は飯舘村に伺ったことはいませんが、機会があれば行ってみたいと思います。

## オンライン手話講座を開催しました。

- ① 講演会「耳が聞こえないってどんなこと？」
- ② 手話講座(実践編)

## ① 講演会「耳が聞こえないってどんなこと？」 (3月4日開催)

講師:一般社団法人 全日本難聴者・中途失聴者 団体連合会理事 宇田川芳江氏

宇田川先生より、聴覚障害の種類・聞こえにくさによりどんなことが起こるか、耳が聞こえにくい人と会話するときのヒントなどをお話いただきました。

## ▼「耳が聞こえないってどんなこと？」講演会当日のスライドより(抜粋)

お年寄りも含めて中途失聴者・難聴者の「聞こえにくさ」、「辛さ」、「不便さ」そして「寂しさ」も、

残念ながら  
周囲の人には見えないし、わかりません。

「聞こえません」「聞こえにくいです」とはなかなか言えないものなんです

- ① 全く聞こえないわけではない、聞こえるときもあるし・・・。
- ② 言うタイミングが難しい、面倒な人と思われるのではないかと不安になる。
- ③ 相手に迷惑をかけたり、同情されたり、子供扱いされたり、特別視されたくない。

## 耳が聞こえにくい人と会話するときのヒント

- ① どんなコミュニケーション方法が良い確認する。
- ② 大事なことは残るように書いて渡す  
メール、ファックス、LINEなども活用する。
- ③ 少しゆっくりめに、はっきりと話す  
大きな声はかえって聞きにくい。
- ④ 何の話か、テーマを先に伝える。  
語尾まではっきり話す。
- ⑤ アイコンタクトを取りながら、通じているかどうか確認しながら話す。

⑥ 筆談を頼まれたら、簡潔に、  
相手から見て読みやすく書く。

⑦ 通じにくいときは  
他の言葉に言い換えてみる。  
例 登山→山登り ・当然→あたりまえ  
屋食→ランチ・お昼ごはん  
俳句→五・七・五

耳が聞こえない、聞こえにくい人は、一生懸命聞く 一生懸命見る 両方の手段を使って相手の話を理解しようと 一生懸命努力しています。  
コミュニケーションの方法は、ひとつだけではありません。伝える方法はたくさんあります。  
目の前の人にあなたの伝えたいことがきちんと伝わるように工夫をしましょう。  
お互いに伝えあうことを、絶対に諦めないでください。

# ボランティア通信

Vol.40

## ① 講演会「耳が聞こえないってどんなこと？」

### 参加者の感想

・来月から就職をする身で、ほとんどリモートで多くの顧客と話す機会が増えるということで、もしかしたら耳の聞こえづらい方もいるのではないかと思い、今回受講しました。どのようにしたら相手はストレス少なく心地よく対話ができるのか、具体的な方法やヒントを知ることができてとても良かったです。今回伺った事を忘れず、今後生活していこうと強く思いました。

・聴覚に障がいを持っている方の考えていることや生活する中での困難な事を直接お聞きする機会がありとても良かった。コミュニケーションの重要性は難聴の方との会話に限らず健聴者同士でも非常に大切だと知った。話している人が健聴者だと当たり前思わず、相手の表情や仕草からその人が今困っているのかなど配慮することは今後の社会の中でもとても重要だと再認識した。

## ② 手話講座(実践編) (3月5日開催)

講師:五十嵐郁子氏 / 企画:上智大学手話サークルてのひら

挨拶・日常会話で使える表現(リモートでの会話・アルバイト・災害時など)をセクションに分けて、キーワードとなる単語などを中心にした手話を教えていただきました。

各セクションの間に、ブレイクアウトセッションを組み入れて、グループで復習できる機会をつくり、テンポよく講座が進みました。

たくさんの手話の単語を一度に覚える事は難しかったと思いますが、初心者同士、和気あいあいとグループワークに取り組んでいました。



▲「こんにちは」の手話

最後に、参加者のリクエストで「コロナ」、「パンデミック」など、話題となる単語も教えて頂き、手話に楽しく親しむ事ができました。

この回をきっかけとして、これからも色々な場面で手話にチャレンジして欲しいと思います。

### 参加者の感想

・詳しい解説、そして最新のコロナ関連や、災害時、また日常で使える手話を沢山教わることが出来たのはとても良かったです。事前に送って頂いた本で軽く予習をしていたのですが、本日実際にご教授頂いたことで各手話動作の意味合い等、本のみでは知りえなかった事などもたくさん学ぶことが出来、理解が深まり非常に深い充実した学びの時間となりました。

・手話の形だけではなく、強さやスピード、表情などについての言及があった点が興味深かったです。言葉を示すというより、意味を表現するためのツールとしての手話の奥深さを感じました。

・様々な手話を学ぶことができとても楽しかったです。手話の由来というか語源も一緒に教えて頂いたことで、より分かりやすく覚えやすかったです。充実していた故にもう少しやってみたかったという気持ちもあります。ありがとうございました！

・耳が聞こえない人のためのもの、というイメージが強かったのですが、手話ではこんなふうで発想してこのように表現するのか、とおもしろく、言語学や文化の観点から興味深いと思います。相手の姿が見えるけれど声が届かない(または声を出してはいけない)場所でも、手話は役立つのではないかと感じました。私は手話は少ししか知りませんが、手話ニュースなどを見ていると、滑らかに様々な動きをして、表現すること自体の美しさを感じる事がよくあります。

## 南三陸町観光協会主催オンラインイベント

東日本大震災で甚大な被害を受けた宮城県南三陸町では、町の中心に位置する「復興祈念公園」、そして「復興祈念公園」と“さんさん商店街”を結ぶ隈研吾氏デザインの「中橋」が2020年に完成しました。(※「復興記念公園」は2019年12月に一部開園していましたが、2020年10月に全体開園。)震災から10年の歳月を経て、町の景色も大きく変化したと思います。

新型コロナの影響で、現地に足を運ぶことはできませんでしたが、3月6日に開催されたオンラインイベント(主催:一般社団法人 南三陸町観光協会)に、20名の学生が参加し、記念講話やバーチャルまち歩きを通して、それぞれの学びを深めました。

### <当日のプログラム>

- 第一部 南三陸町長 佐藤 仁氏メッセージ
- 第二部 ・遠藤健治元副町長による記念講話。  
(発災前後の経験談、震災から得た教訓、復興に携わった全国の人々へのメッセージなどをお話いただきました。)
- ・南三陸の今を知る、バーチャルまち歩き
- ・定点観測写真を用いた復興の軌跡紹介



### 参加者の感想

・(佐藤南三陸町長の「全国からきてくれたボランティアの皆さんへの感謝」の言葉から)微力だと思っても、1人1人のボランティアが復興に繋がると改めて感じ、小さなことでも自分にできることをしようと思いました。

・「南三陸の自慢は人」という言葉が特に印象的でした。外から来る人々を温かく迎える南三陸の方々の気持ちが伝わってきて、実際に町を訪れてたくさんの皆さんと言葉を交わしたいと思いました。

・(定点観測写真を用いた復興の軌跡紹介から)職員の方が撮られた写真の枚数を知り、その方の南三陸町に対する思い、復興への強い意志を感じた。一度ゼロになった町が復興していく様子は、人類の文明力や努力の賜物だが、同時に道路や橋が完成してもなおどこか侘しさの残る街の姿に言葉にできない感情を覚えた。お見せいただいた写真は、今の私たちだけでなく後世にとっても非常に価値のあるものだと思うので、もっといろんな人にこの定点観測写真を見てもらいたいと思った。

・イベントの最後に仰っていた「10年は節目ではない」という言葉が心に残りました。外から見れば10年は区切りのように思えますが、実際にはまちづくりを含め様々な事柄が道のりの途中にあること、そして10年前から続く思いがあることを忘れてはならないと思いました。オンラインではありませんでしたが、こうした発見ができたことに本当に感謝しています。当時を忘れず、その思いを未来に繋げていきたいと思っています。南三陸町を訪れる日が早く来ることを願っています。

# ボランチ通信

Vol.40

## 復興庁主催 復興・創生インターン 2021年春報告

「復興・創生インターンシップ」とは、岩手・宮城・福島の被災地域で経営者の右腕となり、単なる就業体験に留まらず、被災地の企業が抱えている経営課題に対して、経営者と学生が協働し、解決に取り組む実践型のインターンシッププログラムです。

2017年度から実施されてきたこのプログラムは、この2021年春の実施で最後となりましたが、本学からはこの4年間で計37名の学生が参加させていただきました。

今回は、2021年春に釜石市の企業のインターンシップにオンラインで参加した、堤奈々美さん（法学部地球環境法学科3年）の報告を紹介します。

2021年2月からの1ヶ月半、復興庁が主催する「復興・創生インターンシップ」に参加しました。岩手県釜石市にある株式会社かまいしDMCにおいて、根浜地区の事例を基に、まちづくりに興味を持つ学生向けの研修作りをしました。そして最終日は、You Tubeで活動成果報告会を配信いたしました。

### 参加の理由

そもそも参加しようと思った理由は、「何かを企画すること」、「課題解決に取り組むこと」に積極的に関わりたいと思っていたからです。中学・高校時代、組織をまとめ目標に向かって取り組む中で、様々な課題にぶつかり、それを解決することを繰り返し、自分の成長を感じてきました。大学でも何か成長する環境に飛び込みたいと思っていたところ、このインターンを見つけ、研修作りに関わることで企画づくりの実践的なスキルをはじめとする、様々なことを学ぶことが出来るのではないかと考えました。また、大学の授業で、まちづくりと法律の関係について勉強し、まちづくりについて興味を持ちました。このインターンで、まちづくりの実践的な部分を学びたいと考え、参加することを決めました。

### 学んだこと・成長

私がインターンを通して学んだこと・成長したことは行動力です。私はこのインターンに参加した当初、自分の欠点は「優柔不断で行動にうつすまでに時間がかかってしまう」ところだと考えていました。インターン期間中は行動力の向上を個人的な目標の1つとして意識したことで、大きく成長することが出来たと思います。

あっという間の1ヶ月半でしたが、とても濃い日々を過ごすことが出来ました。

「まちづくりに興味を持つ学生向けの研修作り」の中で堤さんとチームメンバーの学生が事例から抽出した、まちづくりのリーダーに見られる行動特性

- ・責任感
- ・政治力
- ・伴走力
- ・寄り添い力
- ・チャレンジ精神
- ・オーナーシップ
- ・予見力
- ・自主性
- ・行動志向
- ・自発性
- ・計画性
- ・最良思考
- ・集団力学の理解
- ・EQ
- ・交渉力
- ・合意形成力
- ・傾聴力
- ・交渉力
- ・コントロール力



TRY!!!Kamaishi Internships 2021 春成果報告会

<https://www.youtube.com/watch?v=T8crBSmQT9I>

2021春 成果報告会はこちらからご覧ください→



4年間にわたり「復興・創生インターンシップ」を企画・運営し、学生を受け入れてくださった皆様、貴重な体験をさせていただき、誠にありがとうございました。

## 後輩に贈るボランティア報告会

3月18日、今春卒業する8名の学生が、“後輩たちへのリレーメッセージ”として、ボランティア活動の報告を行いました。ボランティアサークルの代表をつとめた人、ボランティア・ビューロー主催のプログラムに個人的に参加した人など、多種多様な経験をしてきた学生たちが、どのような思いでボランティア活動に携わってきたか、団体をまとめる難しさを感じながらどのような成長を遂げることが出来たのか等、自身の4年間の活動を振り返ってくれました。

当日は4月に入学予定の方々も多数参加していただき、在学生・教職員も含め、8名のプレゼンテーションに熱心に耳を傾けていました。

卒業生たちの充実感に満ちた報告に、全員が多くの刺激を受けたことと思います。

### ～卒業生の報告から、印象に残った言葉をお届けします～

・形に関係なく**目的(何をしたいのか)を考える機会を作ってみると、もっと面白いことができるかもしれない。**

・生きていの中で、人のためにやっている事はたくさんあるはず。**ボランティアという意識を強く持たなくても、その営みが大切。**

・(ボランティアサークルの幹部としての悩みとして)  
活動する人とならない人の差はどこから生まれるのか？足の重い人を動かすにはどうしたらいいのか？

・「**思い出作りで終わらない国際協力**」を遂行する。**現地の考えを最優先に。**

・**小さいことから始めてみる。**出会いは宝物。

### 参加者の感想

・活動内容の紹介だけではなく、活動を通して何を得たか、ボランティアに対する姿勢はどうあるべきかなどを聞くことができた点がよかった。

・高校でボランティアをやっていたため、私がやっていることに意味はあるのかと感じたこともあって共感できることもありました。一方で、発表されている方々のやられている活動が、一つ一つ相手のためになるように考えられているもので、大学生の本気(?)を感じました。そのサークルの前代表の方が発表をしてくださったので「未知」という感覚が薄れて良かったです。

・ボランティアに真摯に向き合ってきた先輩たちの含蓄ある話と感じました。ボランティア活動で感じたよい面だけでなく、**苦労した点、改善点などもお話しください、勉強になりました。**

・発表されたどの方も「ボランティアとは何か」「その意義とは何か」を熱く語っていた姿が印象的でした。ボランティアは肩肘張ったものという印象を受けてしまいましたが、そうである必要はないことがわかりました。大学を卒業され、社会でご活躍されることを祈っています。



発表してくれた8名で記念撮影をしました→

今回の報告会に協力して下さった2020年度ご卒業の皆さん、素晴らしい発表をありがとうございました。新しい舞台でのご活躍を祈念しています！